

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2026年06月分)

ご協力ありがとうございました。2026年6月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 141 回答 133 回答率 94.3%

調査項目	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	
売上数量	18社	27社	49社	22社	17社	133社
	13.5%	20.3%	36.8%	16.5%	12.8%	
	(6.8)	(10.6)	(38.6)	(28.8)	(15.2)	
売上高	19社	28社	46社	25社	15社	133社
	14.3%	21.1%	34.6%	18.8%	11.3%	
	(6.1)	(12.9)	(37.1)	(28.0)	(15.9)	
在庫数量	12社	19社	65社	26社	8社	130社
	9.2%	14.6%	50.0%	20.0%	6.2%	
	(8.7)	(15.0)	(49.6)	(21.3)	(5.5)	
販売単価	5社	41社	66社	17社	3社	132社
	3.8%	31.1%	50.0%	12.9%	2.3%	
	(3.8)	(22.0)	(54.5)	(14.4)	(5.3)	
収益状況 (粗利)	15社	31社	53社	25社	8社	132社
	11.4%	23.5%	40.2%	18.9%	6.1%	
	(8.4)	(17.6)	(43.5)	(22.1)	(8.4)	
稼働率 (生産・加工設備)	6社	18社	58社	25社	11社	118社
	5.1%	15.3%	49.2%	21.2%	9.3%	
	(3.4)	(12.9)	(54.3)	(22.4)	(6.9)	
入出庫の トラック台数	5社	25社	61社	28社	9社	128社
	3.9%	19.5%	47.7%	21.9%	7.0%	
	(2.3)	(10.9)	(56.6)	(23.3)	(7.0)	
現在の 景況感	0社	8社	55社	48社	18社	129社
	0.0%	6.2%	42.6%	37.2%	14.0%	
	(0.0)	(3.8)	(45.0)	(37.4)	(13.7)	
3ヶ月後の 景況予測	0社	11社	79社	34社	5社	129社
	0.0%	8.5%	61.2%	26.4%	3.9%	
	(0.0)	(3.1)	(70.5)	(24.0)	(2.3)	
特記事項						

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②()内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局 TEL：047-350-5311 FAX：047-350-5316

景況実感調査(2026年6月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置き願います。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 中東情勢の長期化に伴い、一部需要家では原材料調達や生産計画への影響が継続しており、需要全体は引き続き停滞感が強い状況となった。一方で、鉄鋼メーカー各社は、原材料価格や製造コストの上昇を背景に値上げ姿勢を強めており、市況もじりじりと上昇基調を見せている。しかしながら、実需の盛り上がりを欠く中で価格改定であるため、流通段階での価格転嫁は容易ではなく、慎重な対応が続いている。
- ② 6月は稼働日が22日と多かったこともあり、また、値上げによる仮需も起こっていたようで、販売はここ最近では一番良かった。ただ、値上げについては、薄板の中でも表面処理が一番遅れており、7月頃から段階的に上がっていくものとする。

中板

- ① 中板は需要面に大きな変化はなく、引き合いは低調に推移するものの、市況はメーカー値上げ以降、強含みの展開を維持している。鉄鋼団地内、三次店、ユーザーとそれぞれで売り腰に違いはあるが、値上げ玉の入荷に合わせ上伸基調にある。

厚板

- ① 状況に大きな変化なく推移している。
- ② 建設機械は、中東情勢の不安定により、売上の減少が続いている。店売り関連は、資材高騰の影響、また、人手不足もあり、売上の減少が続いている。

一般形鋼・H形鋼

- ① 需要が少しずつ出てきた感がある。一部サイズで歯抜けも出てきており、今後に期待大である。
- ② 営業日は前年同月比1日、前月比4日多いにもかかわらず売上高、売上数量は激減し、収益状況は悪化している。8月は営業日が極端に少ないので心配である。

- ③ 3、4月に値上げ途上の需要先食いが起こり、5月は反動減となった。6月は稼働日数もあり通常稼働に戻ると思いきや、日当り出荷は大幅減少、総量は横這いとなる。今上期の需要低迷はある程度覚悟していたが想定以上。より慎重な仕入れに徹し、需要に過度な期待はせず採算確保に取り組む。
- ④ 駅前再開発案件の計画見直しが多くなっている。建設費の高騰や金利上昇、施工業者の人手不足が問題である。データセンターはまだまだ増える傾向である。

異形棒鋼

- ① 予想以上の実需の減少、荷動き不振で、値上げ転嫁は厳しい環境にある。このままでは経費も稼げず赤字になる恐れあり、踏ん張りどころである。

平鋼

- ① 6月の店売り定尺出荷は、5月と同様で値上げ前の在庫購入があったが、必要最低限の購入になっている。社内加工の案件も一部地域案件が入っており、4月、5月よりは多少山積みは高く、7月後半くらいまでは加工が入っている状況。また、7月契約でメーカーの値上げが発表されたので、引き続き4月、5月分の値上げを進めていくが、荷動きが悪い中での値上げなので慎重に進めていく。
- ② メーカーの値上げによる仮需が増加。建築物件は相変わらず少ない。年末から来年にかけて多少物件が出てきそうである。

軽量形鋼

- ① 受注量は横這いが継続。今後微増傾向は窺える6月以降、地域差はあるものの、増加傾向は窺える。

鋼管

- ① 値上げ前の仮需は少ない。
- ② 品種毎に値上げを実行しているが、駆け込みが見受けられない。引き合いは増えているものの、全体的荷動きはあまり良くはない。

構造用鋼

- ① 需要は自動車メーカーで濃淡あるも、総じて横這い。建機、産機は回復基調。半導体関連に勢いが見て取れる。在庫は変わりなく適正水準。価格は春先のメーカーの値上げ（トン1万円以上）を受けて、流通側のコスト上昇分も踏まえた価格転嫁を進める状況。

磨棒鋼

- ① 自動車向け紐付き品は、一部向け先を除き調整局面が続いている。店売り品は、若干の回復傾向あるも、勢いを欠く状況。製鋼メーカー各社より春先に続き追加値上げの要請あり、諸コスト上昇分も加えて本格的に価格改定の交渉を開始。

ステンレス

- ① ニッケル系冷延薄板について、日本製鉄は6月契約価格を2万5千円引き上げ、現在までの上げ幅は10万5千円に達した。ADについては6月19日に「クロ」との仮決定がなされた。不当廉売差額率は台湾メーカーが3.86%～20.71%、中国メーカーが33.29%～45.32%。足元、両国からの輸入量は激減しているが、代わりにベトナム、韓国などの入着量が急増している。

その他

<スクラップ>

- ① スクラップ発生量は引き続き低調だが、国内メーカーのスクラップ購買意欲は弱く、一部では荷受け制限も見られる。40年ぶりの円安水準にもかかわらず、輸出向け商談も低調で、夏場の生産減少を踏まえると、相場は弱含みで推移する可能性がある。

<金属表面処理>

- ① 6月は物件物、紐付きは計画通り。スポット案件は一部の塗料入荷が困難なことから、延期していただくこともあり、スポットの受注量は前月比▲15%の扱い量となった。7月もシンナー、塗料の影響は予想されるが、紐付きを中心に操業予定。